

新しい年を迎えて



高山市議会議長 島田 政 吾

新年あけましておめでとうございます。
市民の皆様には、ご健勝にて新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、春のマイマイガの幼虫の大発生に始まり、夏の豪雨による土砂崩れや橋りょうの流失、秋の御嶽山の噴火、クマの出没による被害、年末の豪雪など、自然の猛威を見せつけられた1年でありました。被害等に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。被害等とともに、どれだけでも早く元の生活を取り戻し、安全で安心して暮らせるよう、議会としてもより一層の努力をまいります。

一方、冬のソチオリンピックにおける日本人選手の活躍、ノーベル物理学賞の受賞など明るい話題も多い1年でした。本市においても、これまで観光客が足を伸ばさなかつたところでも観光客を見かけるようになるなど、観光客のニーズや行動範囲が広がりを見せるとともに、その入り込み数も順調に伸びていきます。

特に、外国人観光客は、宿泊者ベースで大きく増加をいたしました。加えて、秋には、本市とフランス共和国のコルマル市との間で、経済・観光協力協定が結ばれました。この協定締結を契機として、更なる誘客の促進や地域経済の活性化が図られるものと、大きな期待を寄せているところであります。そのほか、協働のまちづくりの推進、JR高山駅の建て替え、市内各所の環境整備など市民の皆様にも夢と希望を与えるさまざまな取り組みもすすめられてきました。

こうしたなか、本年2月には合併10年を迎えます。本市は、合併以来、「個性ある地域の連携と協調」を基本テーマとする合併まちづくり計画と高山市

第七次総合計画に基づき、創造性豊かで活力あふれる自立したまちづくりをすすめてきました。今、本市を取り巻く環境は、人口減少、少子高齢化、合併特例期間の終了に伴う地方交付税の減、不安定な景気動向等、これまで以上に困難な、そして予測が難しい社会経済情勢のなかにあります。こうしたなか、合併以後の10年間のまちづくりの検証と今後の社会経済情勢の変化を踏まえるなかで、10年後、あるいは20年後の本市の姿を展望する高山市第八次総合計画が策定されようとしています。

高山市議会においても、「総合計画に関する特別委員会」を設置し、市民の皆様の見解や思いを市政に反映させるため、議員全員で調査・研究をすすめています。昨年4月には、市長に対し、「高山市第八次総合計画基本計画に対する政策提言書」を提出したところでありますが、引き続き、調査・研究をすすめるとともに、審査・議決を通じて、二元代表制の二翼を担う議事機関としての責務を果たしてまいります。

この4月には統一地方選挙を迎えます。高山市議会は、基本条例を定め、広大な市域におけるまちづくりの責任ある意思決定機関として、市民の負託に応えるべく、議員相互の議論を深めて合意形成を図り、わかりやすく開かれた議会を目指しています。今後とも、市民の福利の増進を図るため、民主的で持続可能なまちづくりに全力で取り組んでまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年が、市民の皆様にとって健やかで幸せに満ちた一年となりますことを心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつとさせていただきます。